



企画にあたって

坂東泰子 (三重大学大学院医学系研究科基礎系講座分子生理学教授)

肥満は「世界的なエpidemick (流行病)」と称され、わが国の20歳以上の肥満者 (BMI ≥ 25 kg/m²) は女性2割に比して男性約3割と増加傾向がある (2022年厚生労働省 国民健康・栄養調査)。肥満は多くの場合、高血圧・糖尿病・睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の原因であり、動脈硬化性血管病 (ASCVD) の複合リスクとなることが知られるが、最近では心不全 (HFpEF) のリスクであることも再注目されている。実際、さまざまな肥満治療には心不全悪化や心血管イベント抑制リスクがあることもわかり、そのメカニズムについて注目が高まっている。

肥満大国であるアメリカでは、アメリカ心臓協会 (AHA) が「obesity and cardiovascular disease」に関する scientific statement を2021年に上梓した。しかし、日本ではこうした循環器領域の総合的治療指針はまだなく、日本人肥満者では BMI は低めでも内臓脂肪が多いなど、欧米人との人種差を考慮した日本独自の推奨が望まれる。

本特集は、肥満・肥満症の循環器疾患における病態意義を、基礎から臨床まで最新の知見を幅広く理解するために企画した。循環器領域はもとより、普段学ぶ機会を得難い各専門分野のエキスパートによる質の高い解説が結集した本特集記事は、肥満関連病態を理解するためのエンサイクロペディアとして循環器内科医師・研究者に役立つことが期待される。循環器領域だけでは学ぶことのできないナレッジに触れ、日々の診療・研究の幅が広がる機会となれば本懐である。

書面にて略儀ながら、かくも珠玉の高稿を執筆いただいたすべての著者の先生方に心より感謝申し上げます。